

どんな情報がある？

大雨や台風のときには、気象警報や避難情報などに注意し、安全に避難しましょう。

気象警報の種類

種類	大雨 (土砂災害・浸水害)	暴風	説明
特別警報 重大な災害の起こる恐れが著しく大きい	大雨特別警報 (土砂災害・浸水害)	暴風特別警報	ただちに命を守る行動をとる。 (避難所へ避難するか、外出が危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる)
警報 重大な災害の起こる恐れ	大雨警報 (土砂災害・浸水害)	暴風警報	・早めの自主避難、または市町村の かん告・指示による避難。 ・暴風警報については、安全な場所に退く。
注意報 災害の起こる恐れ	大雨注意報	暴風注意報	・非常持出品の点検。・避難場所の確認。 ・窓や雨戸などの家の外の点検 ・気象情報に気をつける。
その他の 情報	土砂災害警戒情報	-	大雨による危険度が高まったとき発表され、 市町村の避難かん告発令や住民の自主避難 の参考となる防災情報。
	記録的短時間 大雨情報	-	大雨警報が発表されている時に、数年に1回 程度発生する激しい短時間の大雨を観測、 または解析したことを発表する情報。

出典：気象庁

避難情報の種類

テレビで、「はん濫注意情報」
とは、避難の準備を始める合図です。

「はん濫注意情報」とは、避難の準備を始める合図です。
お年寄りや小さな子供は、避難するのに時間がかかる
ので、「はん濫注意情報」を合図に避難を始めるとよい
でしょう。

テレビで、「はん濫警戒情報」
とは、避難を始める合図です。

住んでいる市・町・村から、避難についての情報が、
広報車や無線、サイレンなどで伝えられます。避難
勧告が出なくても、危険を感じたら自分からすすんで
避難するようにしましょう。

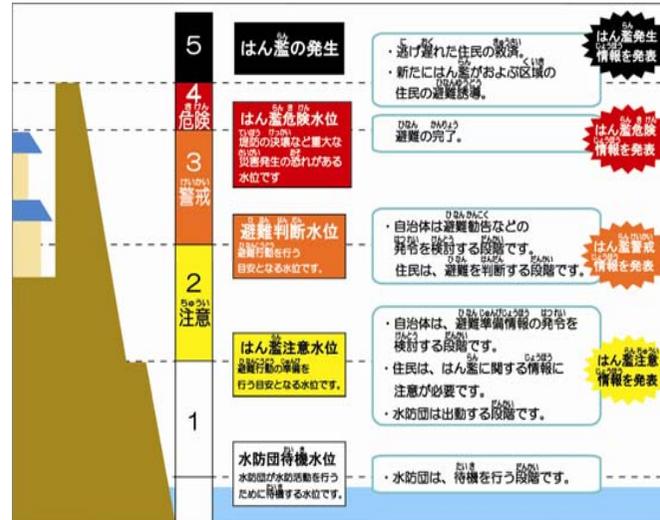


ぼうさいむせん
防災無線

川の危険度レベルを知ろう

橋などには、水位の高さから洪水の危険度が判断できる表示があります。自ら危険度を判断できるようになりましょう。

また、川の水位は避難勧告等の発令の基準です。水位が上がってきたら、さつまつからの避難情報に注意しましょう。



川の危険度レベル表示



川の水位は、川内川河川事務所「早よ見やん川内川」(インターネット)でも見るができます。

こう水が起る雨量の目安を知ろう

テレビやラジオの天気予報では、雨の降る量(降水量)のことを、「mm(ミリ)」で表します(例「今日は、1時間に30mmの強い雨が降りました」)

1時間に10～20ミリの雨のとき、
天気予報では、「**やや強い雨**」と言います。
★このときのイメージは、ザーザーと降る感じです。

1時間に30～50ミリの雨のとき、
天気予報では、「**激しい雨**」と言います。
★このときのイメージは、バケツをひっくり返したような感じです。

1時間に50～80ミリの雨のとき、
天気予報では、「**非常に激しい雨**」と言います。
★このときのイメージは、ゴーゴーと降り続ける感じです。

1時間に80ミリ以上の雨のとき、
天気予報では、「**猛烈な雨**」と言います。
★このときのイメージは、滝のように雨が降る感じです。

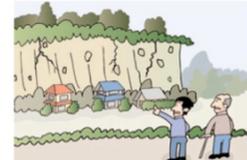
がけくずれ



① かけから小石がバラバラと落ちてくる



② かけから水がわき出している



③ かけにわれ目が見える

地すべり



① さわや井戸の水がにごる



② 地われができる



③ シャメンから水がふき出す

どせきりゅう 土石流



① 川の流れがにごり、りゅうほくがまざり始める



② 雨は降り続けているのに川の水位が下がる



③ 山なりがる

